

令和6年度学校自己評価システムシート (県立伊奈学園総合高等学校) s26

目指す学校像	生徒一人一人の個性と資質・能力を伸ばし、切磋琢磨する中で高い志を持って希望をかなえる生徒を育成する学校
--------	---

重点目標	1 主体的に将来を考えさせる進路指導と、学習意欲を高めるよう工夫された授業を展開する。 2 保護者・地域・卒業生との連携を通じた教育活動の積極的な情報発信を推進する。 3 安心して通える安全な学校の中で、学習と部活動等の両立の実践を通じた充実した学校生活を実現させる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	生成AIの進展などの科学技術の革新が進み、社会状況が大きく変化する時代において、伊奈学生が主体的に活躍できるようになるためには、以下の観点から課題となっている。 【教科指導等】 ア 大学入試改革、新学習指導要領を踏まえて、生徒の資質能力の向上を図るためのより一層の授業改善・指導力向上の取組の推進 イ 生徒がより高い目標を持つための大学入試にも対応した継続的・探究的な学びの推進 【進路指導等】 ア 生徒一人一人が主体的に進路を考え進路希望を実現する割合の増加 イ 生徒がより高い目標を持つための環境づくりと進路指導の質的向上 ウ キャリア教育の観点から、生徒が進学後の自身の生き方を主体的に創造できる自己教育力の習得 【将来構想】 総合選択制のキャリア教育、中高一貫6年間の指導、高校入試改善など、創立50周年に向けた展望の検討	【教科指導等】 授業改善と指導力向上により、生徒の学習意欲を向上させる。	① 各教員は、授業改善及び生徒の意欲喚起に連鎖する目標と方策を自己評価シートに明記する。 ② 校内授業見学や他校視察を実施し、学校全体で更なる授業改善に取り組む。 ③ 教科指導において、生徒の継続的な学びの取組及びICTを効果的な活用を推進する。 ④ 「総合的な探究の時間」「IINAサイエンス」を軸に、教科等横断した探究的な学びの充実を図る。	① 当該教員の自己評価が高まったか。 ② 他の教諭の授業を5回以上見学した教諭が80%を超える。 ③ 教科指導において「平日・休日の平均勉強時間」が増加したか。ICTを活用した授業の質的向上があったか。 ④ 教科等横断した探究的な学びの成果として、研究発表の本数が昨年度より増加したか。			
		【進路指導等】 生徒の進路実現のための組織的な取組を実施する。	⑤ 各教員は、生徒の進路実現のための目標と方策を自己評価シートに明記する。 ⑥ 担任や年次が3年間を見通した進路指導計画に基づいて、生徒の一人一人の進路希望に応じたきめ細やかな指導を行う。 ⑦ 難関大学入試にも対応した各種進学講習体制を充実させる。 ⑧ 年4回の見通し共有会等での最新情報の共有、教員の意味疎通と理解を深め、指導に生かす。 ⑨ 科目選択ハンドブックを用いて連携した指導を行う。	⑤ 各教員の自己評価が高まったか。 ⑥ アンケート等で進路指導に関する満足度が前年度より向上したか。 ⑦ 講習参加者の状況は、前年度より向上したか。 ⑧ ⑥⑦ 生徒の進路希望が90%以上実現できたか。 ⑧ 研修会等で適時に正確な情報提供が図れたか。 ⑨ 生徒の科目選択満足度は80%以上になったか。			
		【将来構想】 創立50周年までのロードマップを検討する。	⑩ 将来構想を考える校内検討組織を立ち上げて、創立50周年に向けたロードマップを令和6年3月までに検討する。	⑩ 重点目標が達成できるロードマップが検討されているか。			
2	学校説明会による生徒募集活動およびPTA後援会、同窓会活動等による広報活動を通じて、学校行事等の本校の特色ある教育活動や成果を、様々な手段を使って発信していくことが必要である。	本校の特色や活動の成果などの積極的な情報の発信をする。	① ホームページやInstagramを活用し、動画配信を積極的に行う。 ② 最新情報の発信に努める。 ③ 母校訪問や学校説明会、部活動体験を充実させる。 ④ 生徒一人一人が伊奈学生としての自覚と責任を持ち、年次やハウスを越えて自主的・主体的に行動できるよう指導する。	① 情報発信媒体の更新回数が前年度を上回ることができたか。 ② PTA後援会、同窓会と連携して広報活動ができたか。 ③ 参加中学生及び保護者は、本校の理解を深まったか。 ④ 生徒会活動を通して活発な意見交換がなされ、経験や伝統の継承ができたか。			
3	○ 引き続き、部活動方針や県のガイドラインを踏まえ、生徒が学習活動と部活動等の両立を図ることが課題である。 ○ 生徒の規範意識は高いが、自転車事故等もあり、交通事故防止や交通ルールやマナー指導が必要である。	部活動等の効率的な活動と充実により、学習習慣を確立させる。	○ 「Do活」を軸とした学習活動(週末の課題、読書活動など含む)に学校全体で取り組み、指導する。	○ 生活実態調査で「勉強・部活動の両立ができた」と回答した生徒が前年度より増加したか。			
		職員が一丸となり、様々な事故防止への取組を強化し、安全に対する意識を高める。	○ 全教員の共通理解のもと、HRや集会等を通じて生徒自身でマナーを考え行動できるように丁寧な指導を行う。	○ 前年度より生徒の事故件数、苦情件数が減少したか。また、ヘルメット着用が普及したか。			

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	